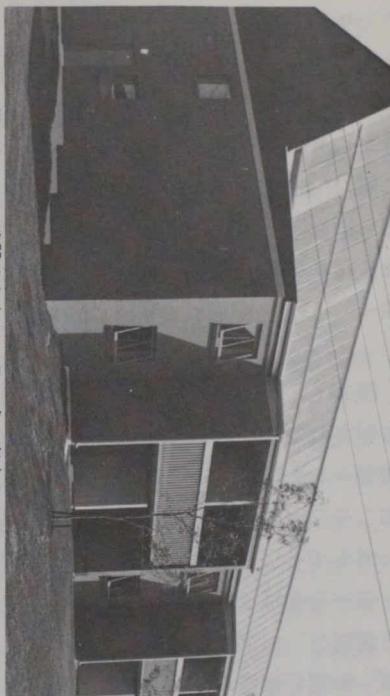


八
イオマス

用紙を送つて いる。

MELISSA

日本の目標は、カナダのエネルギー供給全体に占める木材および木材屑の割合を、一九八五年までに倍増し、七%に引き上げることだ。製材所で出るおが屑等や森林伐採後の粗朶が主な対象である。これらの木材廃棄物から得られるエネルギーは、これまでに達するといふ。商業ベースによる木材の消費量はかに商業的伐採に向かない種類の木を加えればこの量はもつと多くなる。この政府計画により、一九八五年までに林業機械関係で五千人／年、林業関係一千五千人／年の仕事が創出されるものと見られてゐる。そしていすゞは、木材を輸出し、カナダ林業がエネルギーの輸出産業になることも期待されてゐるのである。木材のガス化も、たとえば自動車の燃料などとして、大いに期待されるのである。これもまた太陽を利用した、「無公害再生エネルギー」、潮力発電などの利用は専ら河川のダム化という形がある。これもある太陽を利用した、「カナダで研究が進められていてるもの」、一九八五年までに期待される分野だ。



卷之三

ある。古所のゴミやトイレの屎尿は特別で加熱した温水タンクを利用す。まだ取り出しつ、熟成し完全に衛生的な肥料として使えるといふ。

このユニクリ建築物は、ユーノアルケミー研究所が考案したもので、同研究所とアリанс・エドワード・アイラント州政府、連邦政府三者との共同事業として建設された。このよつな。バイオ・シェルター。設計の目的は、もちろんエネルギー資源をエネルギー源とする効率的で可能な技術から、太陽や風や生物など再生可能形で地上に届く。一年間でカナダにわられる量が多いとはいえ、大半は利用可能全體が年間消費するエネルギー量は、国民一人消費量全体の約三分の一を占める。天カナタでは暖房・給湯用が、エネルギー資源に等しいと言われている。カナタのソーラー・ハウスク第一号は、一九七一年に建てられた。

暖房給湯装置は、燃料費がゼロという解決策のシステムにくらべて、太陽熱利用の自然ガスや石油あるいは電気などを使う従来のシステムに比べて、太陽熱利用のコストが年間消費するエネルギー量は、国民一人消費量全体の約三分の一を占める。天カナタでは暖房・給湯用が、エネルギー資源に等しいと言われている。カナタのソーラー・ハウスク第一号は、一九七一年に建てられた。

太陽熱